

二〇二四年度 博士後期課程外国人留学生入学試験・二〇二三年度外国語能力試験 問題

早稲田大学大学院法学研究科

教員名… 松澤伸

日本語小論文

研究指導名…

刑法

研究指導

以下の2問の両者につき、回答しなさい。

- (1) 甲は、知人A宅に強盗に入ろうを思いつき、乙・丙に話を持ちかけ、A宅の間取りなどを示して具体的な計画を説明しながら、強盗に及ぶことを共謀した。翌日午後一〇時、乙・丙は、計画通りにAの在宅する住居に侵入し、甲は逃走用の車の中で見張りをしていた。しかし、物音を聞きつけたAの隣人Bが騒ぎ出したため、甲は、犯行の発覚をおそれ、すでにA宅に侵入していた乙の携帯電話に電話をかけ、「外で人が騒ぎ出した。犯行をやめたほうがいい。先に帰る」と一方的に告げて逃走した。残された乙・丙は、外を確認して甲が逃走したことを認識したが、そのまま強盗に及び、現金三〇万円を強取した。その後、乙・丙は、「甲のやつ、まったく腰抜けだな」「仕方ない。それよりも、甲が逃げたのは隣のやつが騒いだせいだ」「そうだな、甲のことは忘れて、隣の家にも強盗に押し入るか」などと話し合ったうえ、午後一時、Aの隣人B宅に侵入して強盗に及び、現金五〇万円を強取した。甲の罪責を論ぜよ（特別法違反の点は除く）。

- (2) 実行の着手一般について概説した上で、間接正犯における実行の着手時期について論ぜよ。